

# CLIを使用したSG350XGまたはSG550XGスイッチでのIPv4管理インターフェイスの設定

## 目的

IPv4管理インターフェイスの設定は、スイッチのIPアドレスの管理に役立ちます。IPアドレスは、ポート、リンク集約グループ(LAG)、仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)、アウトオブバンド(OOB)、またはループバックインターフェイスに設定できます。

Webベースのユーティリティまたはコマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してSG350XGまたはSG550XGスイッチを管理するには、スイッチのOOBポートでIPv4デバイス管理IPアドレスを定義する必要があります。デバイスのIPアドレスは、手動で設定することも、DHCPサーバから自動的に受信することもできます。

この記事では、コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用して、スイッチのIPv4管理インターフェイス(OOB)を手動で設定する方法について説明します。

注：Webベースのユーティリティを使用してスイッチのIPv4管理インターフェイスを設定する方法については、[ここをクリックしてください](#)。

このドキュメントの用語に慣れていない場合は、[Cisco Business:新用語一覧](#)。

## 該当するデバイス

- SG350XGシリーズ
- SG550XGシリーズ

## [Software Version]

- 2.3.0.130

## IPv4管理インターフェイスの設定

**重要：**スイッチがスタッキングモードでスタンバイスイッチが存在する場合、スタックアクティブスイッチオーバー中にネットワークから切断されないように、IPアドレスをスタティックアドレスとして設定することを推奨します。これは、スタンバイスイッチがスタックの制御を行う場合、DHCPを使用すると、スタック上の元のアクティブ対応ユニットが受信したIPアドレスとは異なるIPアドレスを受信する可能性があるためです。

## OOBインターフェイスでのIPv4アドレスの設定

ステップ1：スイッチコンソールにログインします。デフォルトのユーザ名とパスワードはcisco/ciscoです。新しいユーザ名またはパスワードを設定している場合は、クレデンシャルを入力します。

注：SSHまたはTelnetを使用してSMBスイッチCLIにアクセスする方法については、[ここをクリックしてください](#)。

```
User Name:cisco
Password:*****
```

注：コマンドは、スイッチの正確なモデルによって異なる場合があります。この例では、SG550XG 16ポートスイッチにシリアルポートを介してアクセスします。

ステップ2：スイッチの特権EXECモードから、次のように入力してグローバルコンフィギュレーションモードに入ります。

```
SG550XG#configure
```

ステップ3：グローバルコンフィギュレーションモードで、次のように入力してインターフェイスコンフィギュレーションコンテキストを入力します。

```
SG550XG#interface [interface-id]
```

- interface-id:IPアドレスを定義するインターフェイスIDを指定します。

```
SG550XG-16P#configure
SG550XG-16P(config)#interface oob
SG550XG-16P(config-oob)#
```

注：管理インターフェイスを設定するには、インターフェイスOOBを入力する必要があります。

ステップ4：インターフェイスのIPアドレスと対応するネットワークマスクを入力します。

```
SG550XG-16P#configure
SG550XG-16P(config)#interface oob
SG550XG-16P(config-oob)#ip address 192.168.100.2 255.255.255.0
SG550XG-16P(config-oob)#
```

注：この例では、設定されているIPアドレスは192.168.100.2で、サブネットマスクは255.255.255.0です。

Telnetまたはセキュアシェル(SSH)を使用している場合、セッションは自動的に閉じられ、接続は失われます。スイッチは新しい管理IPアドレスをOOBポートに適用します。「[IPv4管理インターフェイスへのアクセス](#)」に進んでください。

```
SG550XG-16P#configure
SG550XG-16P(config)#interface oob
SG550XG-16P(config-oob)#ip address 192.168.100.2 255.255.255.0
Connection closed by foreign host.
Cisco:~ Cisco$
```

ステップ5: ( オプション ) 特権EXECコンテキストに戻るには、endコマンドを入力し、次のように入力します。

```
SG550XG-16P#configure
SG550XG-16P(config)#interface oob
SG550XG-16P(config-oob)#ip address 192.168.100.2 255.255.255.0
SG550XG-16P(config-oob)#end
SG550XG-16P#
```

```
SG550XG#end
```

これで、CLIを使用してスイッチのIPv4管理インターフェイスアドレスを正しく設定できました。

## VLAN IPv4インターフェイスの表示

ステップ1：設定されたIPインターフェイスのユーザビリティステータスを表示するには、次のように入力します。

SG550XG#show ip interface [interface-id]

- interface-id:IPアドレスが定義されているインターフェイスID。

```
SG550XG-16P#show ip interface oob
```

IP Address	I/F	I/F Status admin/oper	Type	Directed Broadcast	Prec	Redirect	Status
192.168.100.2/24	oob	UP/UP	Static	disable	No	enable	Valid

```
SG550XG-16P#
```

IPv4インターフェイステーブルには、次の情報が含まれています。

- IPアドレス：IPアドレスが定義されているユニットまたはインターフェイス。ループバックインターフェイスの場合もあります。
- I/F：特定のインターフェイスの名前。
- I/Fステータス：admin/oper：インターフェイスの管理ステータスと動作ステータスを表示します。
- Type:IPアドレスのタイプ。使用可能なオプションは次のとおりです。

- DHCP:Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)サーバから受信。

- Static：手動で入力します。スタティックインターフェイスは、ユーザによって作成される非DHCPインターフェイスです。

- Default：デフォルトでデバイスに存在するデフォルトアドレス。設定が行われる前のアドレス。

- ダイレクトブロードキャスト：インターフェイス上のダイレクトブロードキャストから物理ブロードキャストへの変換のステータス。
- Prec：インターフェイスでソース優先順位がサポートされている場合のステータス。
- Redirect：パケットが受信された同じインターフェイスを通じてパケットを再送信するために、インターネット制御メッセージプロトコル(ICMP)リダイレクトメッセージを送信するインターフェイスステータス。
- Status:IPアドレスの重複チェックの結果。

- Temporary — IPアドレス重複チェックの最終結果はありません。

- Valid — IPアドレスの衝突チェックが完了し、IPアドレスの衝突は検出されませんでした。

- Valid-Duplicated:IPアドレスの重複チェックが完了し、重複するIPアドレスが検出されました。

- Duplicated：デフォルトのIPアドレスに重複するIPアドレスが検出されました。

- Delayed:DHCPクライアントが起動時に有効になっている場合、DHCPアドレスを検出する時間を与えるために、IPアドレスの割り当てが60秒間遅延されます。

- Not Received:DHCPアドレスだけに関連します。DHCPクライアントは、検出プロセスを開始すると、実際のアドレスを取得する前に、ダミーのIPアドレス0.0.0.0を割り当てます。このダミーアドレスのステータスはNot Receivedです。

ステップ2: ( オプション ) スイッチの特権EXECモードで、次のように入力して、設定した設定をスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存します。

```
SG550XG#copy running-config startup-config
```

```
[SG350X] copy running-config startup-config  
Overwrite file [startup-config]... (Y/N)[N] ?
```

ステップ3: ( オプション ) Overwrite file [startup-config]..プロンプトが表示されたら、キーボードでYを押してYesを押し、Noを押してNを押します。

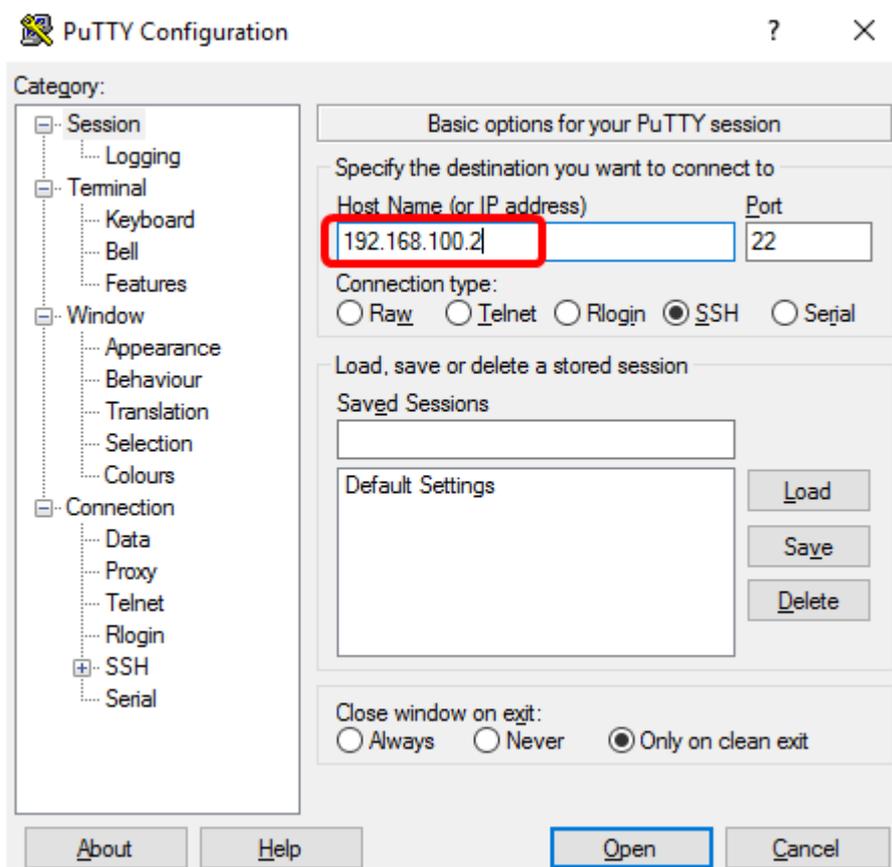
```
SG350X#copy running-config startup-config  
Overwrite file [startup-config]... (Y/N)[N] ?Y  
11-Aug-2017 05:21:59 %COPY-I-FILECPY: Files Copy - source URL running-config  
destination URL flash://system/configuration/startup-config  
11-Aug-2017 05:22:02 %COPY-N-TRAP: The copy operation was completed successf  
ully  
SG350X#
```

これで、CLIを使用してスイッチのIP管理インターフェイスの詳細が表示されるはずですが。

## IPv4管理インターフェイスへのアクセス

ステップ1: 設定されたスイッチインターフェイスのCLIにアクセスするには、使用しているクライアントのIPアドレスを入力します。この例では、PuTTYが使用されています。

注: コンピュータがスイッチインターフェイスと同じVLANに接続されていることを確認します。この例では、192.168.100.2と入力します。



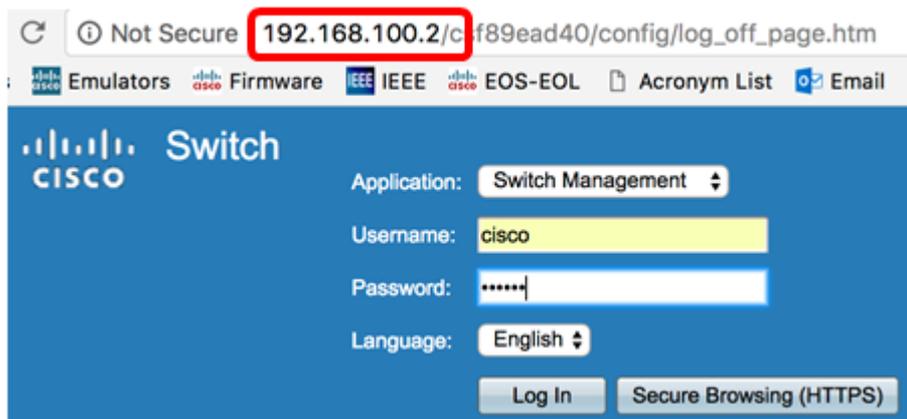
スイッチのCLIにアクセスできる必要があります。

```
192.168.100.2 - PuTTY
login as: cisco

User Name:cisco
Password:*****

SG550XG-16P#
```

ステップ2: ( オプション ) インターフェイスのWebベースユーティリティにアクセスするには、WebブラウザでIPアドレスを入力します。この例では、192.168.100.2と入力します。



これで、IPv4管理インターフェイスアドレスを使用して、スイッチのCLIまたはWebベースのユーティリティに正常にアクセスできているはずです。